

2022年 3月 31日

2021年度「多摩地域市民活動公募助成」事業実施報告書

団体名： 特定非営利活動法人日本ペルー共生協会
代表者・役職名 小波津 ホセ

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

壁を乗り越えよう！～Rompiendo Barreras～

2. 団体の概要(創設の経緯、創設時期=法人で、法人化前に任意団体での活動がある場合、その段階からご記入ください。会員数など。180文字程度まで)

1994年に在京ペルー大使館の呼びかけで在日ペルー人の文化交流や生活水準の改善に取り組む活動団体が結成された。その後、この団体が基盤となり1999年8月に日本ペルー共生協会が誕生し、日本唯一の在京ペルー共和国大使館後援団体となり、2005年の法人化後はアハベとして親しまれている。教育が主で①入学進学②学業成績③アイデンティティ④共生のための事業⑤普及啓発活動⑥情報支援及びネットワーク構築⑦調査研究等です。

3. プロジェクトの目的とその背景(※応募申請書に記載のものでも可) 250文字程度まで

当団体は外国にルーツのある児童生徒(主に中南米)に対する学習支援、進路指導や生活支援を実施してきました。しかし、日本が自然災害、経済不況等に直面すると児童生徒はその都度学びの場・機会を喪失してきました。今回、日本社会が直面しているコロナ感染拡大・不況もかれらの学びの場を奪いつつあり、かれらの将来の可能性に影響すると考えています。そこでコロナ禍において親が経済的影響を受けている外国にルーツのある児童生徒を対象にオンラインによる日本語および教科指導の学習支援を行うことを主目的としています。

4. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度まで

コロナ禍またはコロナ感染収束後も経済的な問題や学びの場・機会が得られない外国にルーツのある児童生徒(小学生高学年、中学生、高校生)に対するインターネットを通して以下の支援を実施する。

① 日本語指導 ②学習支援(教科指導、進路指導) ③母語継承学習(主にスペイン語)

なお、実施回数は先生と各学習者の都合で調整するが最低週に1回/1時間を目安とする予定です。また指導者や参加者に対してバイリンガルのコミュニティの人が悩みや相談に乗って適切なアドバイスや周りへのコーディネートを行うことも心がける。また、必要に応じて自宅訪問をして個別に指導を行い、学習者が小学生の参加には保護者も同時参加を求める場合があります。

5. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度まで

申込者多数で予算枠を超えたのでボランティア指導の人達もいた。来日間もなく高校受験を控えている生徒には英語、数学はバイリンガルで、日本語は英語を使用しての指導も行った。10ヵ月で公立高校合格という嬉しい結果がでた。他方、不登校気味の生徒に関しては自宅訪問、バイリンガルでの支援、保護者へのサポートを行ったが状況の改善はあまり見られなかった。今後も継続的に支援が必要である。継承言語教育は指導コストの安いペルー在住の教師と生徒をマッチングさせて指導し成果が上がった。何組かの保護者から家庭訪問をして子ども＋保護者へのサポートも依頼され(学校のお便りの説明など)きめ細やかな指導を行い成果が上がった。

6. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字まで

ネット使用での指導はペルー本国からの指導も含めて今後いろいろな可能性があると感じた。不登校に陥っている生徒に対しては個別支援だけではなかなか解決が困難で学校、カウンセラー、保護者がチームを組んで対応する必要がある。しかし保護者がサポートを積極的に受け入れなかったり、子どもは以前居住していた国への帰国希望であるが状況から見て不可能である場合には問題解決になかなか結び付かないので苦労が多かった。国境を越え生活する人たちの問題の根深さに改めて気づかされた。一つのファミリーと向き合って学校の教育、生活支援のサポート、心のケア等横断的に支援できる方法を考えることが今後の課題と考える。

7. 参考資料:プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等の現物またはコピー、活動状況の写真などを、“必ず”、別途、ご提供ください。

日本ペルー共生協会の活動の様子



ほんの一瞬、コロナの中でも町田で学習ができた 2021年8月の土曜日



ほとんどがネット指導であるが学習支援だけではなく悩みの相談などにもものる 2021年6月